

学生のページ

海外に羽ばたく

第7回 学校の違い，学生の違い

きゅうばひろこ せき かつみ
休場裕子・関 克己

第7回にして、初の外国人の登場です。アニール先生は、現在、東京工業大学土木工学科で助教授をされています。今回は、アニール先生が日本語を話さないために、インタビューは英語で行いました。英文の記事は、ウェブサイトに載っています。

English version is available at <http://www.jsce.or.jp/journal/student>

アニール クリストファー ウィジェエウクレマ (Anil C. Wijeyewickrema) 氏



1957年7月

1981年1月

1981 - 82年

1984年4月

1984 - 88年

1988年6月

1988 - 93年

1993 - 94年

1994 - 95年

1995 - 00年

1999年 - 現在

スリランカ生まれ

モラトゥワ大学土木工学科卒業 (スリランカ)

Central Engineering Consultancy Bureau (スリランカ) にて現場技術者として働く

アジア工科大学構造工学専攻修士課程修了 (タイ)

ノースウエスタン大学にてリサーチアシスタント (合衆国)

ノースウエスタン大学理論・応用力学専攻博士課程修了

ノースウエスタン大学助手

ノースウエスタン大学講師

ノースウエスタン大学準教授

アジア工科大学助教授

東京工業大学助教授

今回は、このインタビューを引き受けてくださって、ありがとうございます。今日は、アニール先生の4カ国にまたがる大学での経験を中心にお聞かせ下さい。

- まず、スリランカでの大学進学状況とはどのようなものなのでしょうか？

高校生はみんな、“Advanced Level Examination” という試験を受けます。スリランカには、国立大学しかなく、私が学生の頃は、工学系の大学は二つしかありませんでした。

- それでは、すごい競争ですね。

そうですね。その当時はそうでしたし、今でも激しい競争があります。薬学も同じように大学が少なく、競争が激しくなっていました。しかし、工学系の大学は最近増えていますよ。

- 大学卒業後はスリランカで仕事に就かれていますか、それはどのような仕事だったのですか？

私は、政府の機関で働いていました。そこで、16か月ほど、スリランカ中央部にあるマハウェリ川のビクトリアダム建設現場で、現場技術者として働いていました。

- なぜ、もう一度勉強することにしたのですか？

同じ現場で働いていた友人が、アジア工科大学 (以下AIT) に応募しようとしていたんです。だから、私もそれに便乗して応募したんですよ。でも、私は受かったのですが、その友人は、そのときは落ちてしまいました。

それでは、その後の勉強を続けていたときのお話に移りましょう。

- AITでは、さまざまな国からの学生が集まっていたと思いますが、そのような国際的な環境で学ぶことで最も良い点はどういうことだと思いますか？

学生たちだけでなく、学部の教員やスタッフも、日本を含むさまざまな国から来ていました。AITには、修士課程の学生用の部屋がなかったので、学生たちは、個人でか、あるいは出身国ごとの小さなグループで勉強をしていました。英語でよりも母国語でコミュニケーションをとることのほうがずっと簡単ですからね。しかし、グループで取り組むプロジェクトワークやその他の活動においては、本当に国際的な環境にありました。

私たちは、AITにいる人の母国の重要なイベントを目にすることもできました。その国のグループがいろいろな活動を行っていましたから。



AITでのあるパーティの風景 (1995年)

- でも、アニール先生がスリランカから来ている唯一の人であつたら、状況は違っていたと思うのですが。

そうですね。スリランカからの学生も数人いましたが、私はその当時一人で勉強することの方が多かったですね。スリランカでは、いつもそうでしたから。

- 修士課程修了後、なぜアメリカに行くことにしたのですか？

AITでは、フランス政府からと日本政府からの二つの奨学金斡旋がありました。しかし、カナダやアメリカの場合、学生自身が個人的に応募しなければなりません。私は、指導教官の助けもあって、アメリカのノースウェスタン大学のリサーチアシスタントになることができました。

実を言うと、そのとき、日本政府の奨学金により日本で勉強するチャンスもあったのです。しかし、その当時の日本は外国人に対してとても閉鎖的だと感じていたので、日本に行くことを選びませんでした。今は、日本に来て、人々がとてもフレンドリーだと思っていますよ。

- 以前から、博士課程まで進学することを考えていたのですか？

スリランカで勉強しているときには、考えていませんでした。いつでも、私は、遠い将来の計画を立てませんね。私はキリスト教徒なので、ただ、そのときにベストを尽くし、そして、神を信じています。

そして、博士課程修了後、同じ大学で働き始めましたが・・・

- 仕事を選ぶときに何を考慮しましたか？

その当時、アメリカの経済状態はあまり良くありませんでした。固体力学などを専攻した学生たちは、通常、国防関係機関や航空関係の会社に就職していました。しかし、市民権がなくては、そのような仕事につくことはできません。だから、ほとんどの留学生は、大学で研究

者としての仕事を見つけ、グリーンカードとその後の市民権を待っていたのです。私も例外ではありませんでした。

- アメリカにいた10年間で得たことって何ですか？

私は、学生として4年間、そして研究者として6年間アメリカにいました。特に後半の6年間で多くのことを学んだと思います。私の担当教授がさまざまな研究課題で予算を獲得していたので、多くの新しい課題に取り組んでいました。それにより、知識を広げることができ、その間に、能力も大いに改善されたと思っています。

- そして、タイに戻りましたよね。

はい。修士課程での指導教官が、私を呼び寄せてくれたんです。私のやり方は、先ほども話したように、遠い将来のことはあまり考えません。もし、私がもう2年アメリカにいれば、市民権を手に入れることができたんですけどね。

- 学生としてのAITと教官としてのAITは、どのように違いましたか？

多くの学生のうちの一人から、限られた数の教官の一人になったんですから、大きな変化でした。私が学生だった頃の教授の方々も、まだいらっしゃいましたよ。そんな関係の変化も面白かったですね。

しかし、AITには物理的な変化もありました。新しい建物や、新しい施設、AITそのものが大きくなっていました。そして、その10年間で、タイ国そのものも大きく発展していました。

- あなたの生活は、変化しましたか？

はい。学生の頃は、勉強を真剣に考えすぎていました。バンコクの街を2年間の間で、ほんの数回訪れた程度です。タイのほかの場所に行ったりもしませんでした。

- AITでは、奥さんにも出会いましたよね。

そうですね。彼女は、私より前に東京工業大学ともつ



AITでの旧友との再会 (日本, 2001年)

ながりがあるんですよ。95年から96年の間、東京工業大学にユネスコの特別研究員として来ていましたから。その間に、私も彼女をたずねるため、そして東京大学を見に、初めて日本にきました。

そして、今は日本にいますね。

- タイやアメリカで出会った日本人と最近の日本の学生との違いってありますか？

違いの指摘になるかどうかはわかりませんが、私は、アメリカで出会った日本人の研究者たちから、自分のために、きれいなノートを作ることを学びました。研究ノートを丁寧に作っておくことは、私自身にとって、とても有効なことです。というのも、いつでも自分のしたことを振り返ることができ、学生たちを助けることもできます。だから、私は学生たちにノートをきれいに作りなさいとアドバイスしています。

- 日本での実際の生活は、想像していたものと違っていましたか？

私が、日本に来たとき(1999年9月)は、サバティカルで来ている客員助教授でした。だから、あまり生活環境を気にしていませんでした。しかし、私の東工大での身分は2001年に助教授になり、今、私は生活環境を少し良くしたいですね。例えば、もう少し広いアパートを探しています。日本での滞在予定が長くなったので、私たちの友達や親戚が訪ねてきてくれるための、寝室が2つ必要ですから。

- 日本に住むのは、好きですか？

はい、好きですね。日本はとても安全な場所です(地震のことを忘れられるならば...ですが)。そして、交通の便がとてもいいですね。しかし、多くのものは、安くはないですが、すべて良いものを一つの場所で得ることは不可能ですよ。

- 研究の環境はどうですか？

今は、とてもいいですね。私は本当に研究に専念することができます。アメリカでは、私は生活を楽しんでいました、マイケル・ジョーダンのプレーを楽しみ、彼のいるチームであるシカゴ・ブルズを応援し、研究と共に、とてもいいバランスにありました。AITでは、研究にはなかなか専念できませんでした。

- 研究以外の何らかの活動をしていますか？

はい。毎週日曜日に教会に行っています。それから、TIT English Bible Study Groupに参加しています。私たちは週に一度集まり、その週の出来事を話し、それを分かち合い、神をたたえ、そして聖書の中身を議論しています。



2001年度アニール研学生とともに

最後に学生へのメッセージをお願いします

日本にいる学生は、世界のほかの多くの国の学生に比べ、とても恵まれていると信じています。学生たちはそのことを認識して、その機会を十分に利用すべきです。もちろん、学生はずっと勉強しつづけることはなかなかできません、他の活動も楽しむべきです。しかし、最優先事項は「勉強」なのです。

ありがとうございました。

さまざまな状況の中で、アニール先生の道を選択してきた力はすばらしいと思います。私たちも、もっと柔軟な選択をする必要があるのではないのでしょうか。

この記事に対するご意見をお寄せください。

文責：休場裕子

E-mail : edi@jsce.or.jp